http://www.nochuri.co.jp/

分析レポート

国内経済金融

「ご当地ファンド」の特徴について

岡山　正雄

「ご当地ファンド」とは

「ご当地ファンド」とは、投資信託協会ホームページの用語集によれば、「特定の地域に本社や工場、事業所を置いているような、特定の地域と関係が深い企業の株式を組み入れて運用する投資信託」のことである。ちなみにモーニングスター社ホームページによれば、2010 年 7 月末時点で 50 本の「ご当地ファンド」が設定されている。

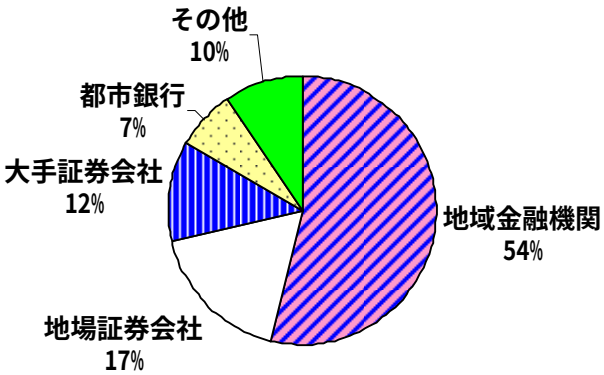
「ご当地ファンド」は地域密着、地元への貢献という付加価値をつけて、顧客への訴求力を高めた商品と言える。そのため、「ご当地ファンド」の販売会社を見ると、地域金融機関が全体の 54%、地場証券会社が 17%とこの 2 つで全体の 71%を占め、地域密着というブランド力を生かして販売をしていることが分かる(図表 1)。

また販売手数料と信託報酬については、他の投資信託よりも低く設定されており、「ご当地ファンド」の販売手数料と信託報酬の平均が、投資信託全体の平均を下回るか、平均値の差の検定(t 検定)を行なったところ、いずれも 1%水準で有意となった(図表 2)。

なお、販売手数料が低い理由は、都市銀行に比べて、相互の競争が激しい地方銀行や地場証券が主として取り扱っていることや、顧客が投資信託購入を始める契機となる商品としての位置づけから、販売手数料を割安にしていることなどが考えられる。

また、信託報酬が低い理由は、流動性の高い国内の大型株の組入比率が高く、運用コストが割安なことが理由と考えられる。

図表1：ご当地ファンドの販売会社数（のべ数）



（資料）運用会社各社ホームページ
地域金融機関には地方銀行、第二地方銀行、信用金庫が含まれる。

「ご当地ファンド」購入時の留意点

以上のような「ご当地ファンド」を購入する際の留意点として、次の 2 点が指摘できる。

①地域リスクの顕在化の可能性がある

第一に、地理的に比較的限られた地域を投資対象とするために地域リスクが顕在化することである。たとえば、地域に住む者が地元の「ご当地ファンド」を保有する場合、台風や地震等の天災のよって自己の住宅が倒壊して、資産が毀損することや、勤務先が操業停止になり、収入が減少することに加えて、基準価額も下落し、家計の運用資産のリスク分散を

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

http://www.nochuri.co.jp/

図表2：販売手数料・信託報酬の比較

	販売手数料(%)		信託報酬(%)		本数
	平均	分散	平均	分散	
全体	2.56	0.68	1.52	0.27	2539
ご当地ファンド	2.06	0.19	1.21	0.07	48

(資料) モーニングスター社ホームページより作成
販売手数料は投信委託会社が定める上限値を使用した。

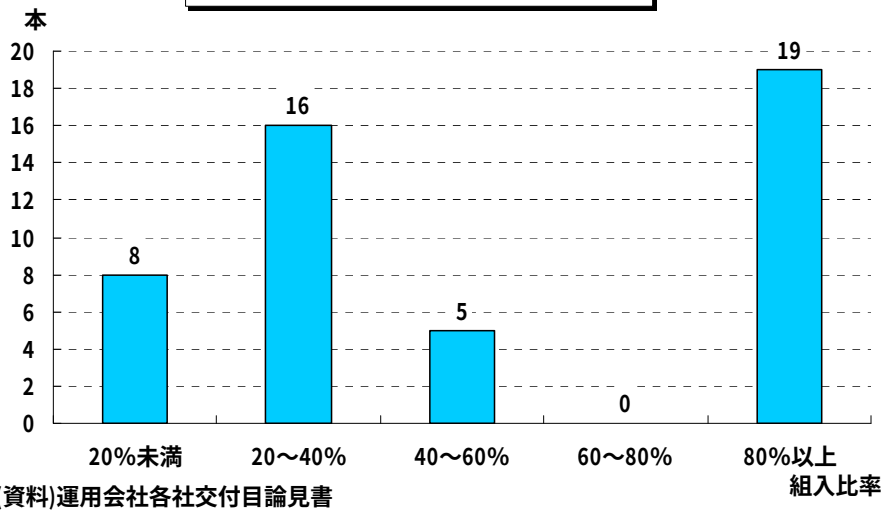
図れないケースが考えられる。

②ご当地銘柄への投資割合が低い投資商品もある

第二に、投資対象が必ずしも地元企業とは限らないことである。

各「ご当地ファンド」の交付目論見書を見ると、ご当地銘柄（特定の地域と関係の深い株式）の定義は投資信託によって異なっており、地域に本社や主要工場を置く企業に限定するものから、地域に雇用を創出している企業も含めるものまである。

図表3:ご当地銘柄の組入比率別本数



(資料)運用会社各社交付目論見書

また、図表 3 には交付目論見書が発行されている 48 本の「ご当地ファンド」について、ご当地銘柄への投資割合を示した。これを見ると、ご当地銘柄に投資する割合が、40%以下のものが半分を占めている(注)。なお、ご当地銘柄への投資割合が低い「ご当地ファンド」の中には、地元の NGO などに信託報酬の一部を寄付するなどして、ご当地との関連性を高めるような試みが行なわれているものもあるが、地域密着という商品性との乖離は否めない。

(注)残りは海外ソブリン債や J-REIT などに投資している。

まとめ

ご当地ファンドは、投信委託会社が地域密着という観点を加え、他の投資信託と差別化を図った商品であり、都市銀行や大手証券会社と異なった商品ラインナップをそろえたい地域金融機関や地場証券会社のニーズに沿った商品である。しかし、購入する際には、投資対象の地域を限定することに伴うリスクがあることなど、他の投資信託とは異なる点に留意する必要がある。

＜参考文献＞

- 投資信託協会ホームページ
- モーニングスター社ホームページ
- 運用会社各社ホームページ

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます